

調査報告 8

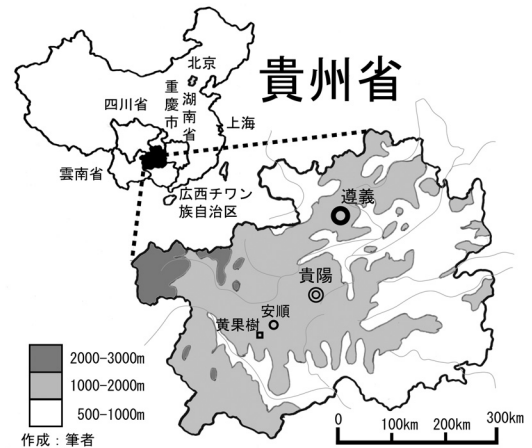
貴州省尊義市商務局の訪問－中国政府の内陸部投資（流通投資）－

中村学園大学 流通科学研究所

客員研究員 小林 修

貴州省は平均海拔1,100m、9割が高原山地で占められ、省全体が大規模なカルスト地形で覆われた無数の凹凸状の地形を有する。小高い山が無数に点在し、わずか1割の平地に多くの人が住んでいるという感じである。面積は日本1.2倍。人口3,800万人、18の少数民族人口が全体の39%を占める多民族省である。貴州省は茅台酒の生産地として有名である。省都貴陽市は人口350万人、海拔1,000mの高原都市であり、年間を通じて温暖な気候である。筆者が訪問した8月中旬は、最高気温28度、最低気温21度で過ごしやすかったが、日中の気象の変化は激しく、小雨が降り始めたかと思うと、急に快晴になったりと、さながら軽井沢を髣髴させた。年間日照時間は短く東京の約半分である。戦国時代（BC403-BC221）は夜郎国〔1〕と呼ばれ、現在は一字で「黔」あるいは「貴」と称される。「黔」の由来は秦代に東北部に黔中郡があったことや、唐代には黔中道と呼ばれたことから現代でも使われ、別名「黔省」と呼ばれる。

1868年に明朝の初代皇帝となった朱元璋（1328-1398）は、元のフビライハンの第5子で雲南王のフゲチ（中国名：忽哥赤。元の梁王）の末裔である梁王バツァツワールミ（中国名：把匝剌瓦爾密）を討つため1881年、約30万人の兵を雲南に派遣した。その末裔が現在でも貴州省安順市近郊に40万人住んでおり、中には600年を経た現在も、当時の漢族の言語、文化、服装習慣をかたくなに守っているものも多く、「屯堡人」あるいは「老漢人」と呼ばれている。筆者は、実際に貴陽市から車で60kmの安順市郊外の天龍屯堡古鎮を訪れ、屯堡人の老夫婦た



ちを観察した。首と手首に黒の縁取りをつけたブルーの長袖のロングドレスで、さらに黒い前掛け付け、黒い帯を頭に付け、髪の毛は両耳の間から巻いておさげのようにしている。祖先はどこから来たかと聞くと、今の安徽省という。朱元璋は濠州（現在の安徽省滁州市鳳陽県）出身なので、故郷の部隊を派遣したのかもしれない。

貴州省は現代中国では一人あたりのGDPが最下位の省であり、上海市の10分の1以下である。これまで改革開放経済政策の恩恵に十分恵まれてきたとは言えない。今回、人民大学商学院貿易経済系の馬龍龍教授の計らいにより、遵義市〔2〕商務局の関係者とともに、農作物流通の実態調査及び建設中の食品流通基地を視察した。加えて、貴州省の農産品流通の課題を考察する。

訪問先：1）貴州土特優農産品博覧城有限公司

2）安順市東方市場

訪問者：中村学園大学流通科学研究所 甲斐論
(所長)、徐涛、小林

1. 訪問報告：

1) 貴州土特優農産品博覧城有限公司：

面談者：陳清明会長、呉女史（窓口）

同席者：遵義市商務局／張顕敏（副所長）

場所：西南農資卸売市場内社長室

内容：

- ① 同社は、貴陽龍洞堡国際空港より1 km、車で5分の所にある。一帯は臨空開発区となっており、龍洞堡食品軽工業園（投資総額136億元＝1,800億円、2017年完成）として大規模な土地開発の基礎工事が始まったところであった。
- ② 空港を生かした農産品の市場、流通施設、食品加工基地を作る。政府より260畝（ムー）＝1,734万 M²の土地を借りる。1,000人宿泊可能なホテル建設も行って、ツアー客も呼び込む。
- ③ 加工する食品の例：筍、唐辛子、蕨^{わらび}、トウモロコシ、牛肉、大蒜（ニンニク）。
農産品の加工工場は四川省に4,000か所あるので誘致したい。

2) 安順市東方市場：

安順産の農産品ブランドとして有名なものとして、安順山薬（ヤマイモ／漢方薬の原料）、安順折耳根（ドクダミの根）、白旗蕪黄（ニラ）、林卡辣椒（とうがらし）があり、広東省、広西省、重慶市、四川省、湖北省に出荷されている。安順市農業委員会は、371の農業団体と15の合作社の合計386組織によって成っており、上記農産品は市内の農産品市場に運ばれている。その出荷形態はトラックと人夫である。後者は少数民族の女性が天秤棒を担いで直接市場まで持ち込んてくる。（次の写真参照）



その他、市場で気付いたことは下記のとおりである。

- ① 貴州料理（黔菜）の特徴：味付けはピリ辛の為、香辛料の小売店が日本に比べてかなり多い。市場の中では、数軒の店が、大量のとうがらしを大きな木の樽に入れ、攪拌／加工を行っていた。貴州料理の特徴は、四川料理の系統ではあるが、激辛ではなくピリ辛で、香りも要求される。次ページの写真は安順市内「重慶順風魚庄」で食べた代表的な烤鱼料理。焼き魚に豊富な野菜、酸菜、香辛料をくわえ、四角い鍋で煮たもの。地理的にも重慶に近く、辛さは成都の「麻辣」（しびれるほどの激辛）ではなく、重慶の「香辣」（ピリ辛）に貴州省の酸味が少し加わり美味。日本人には受け入れられやすい味である。右上は皮蛋（ピータン）、右下のキュウリの唐辛子漬けも、素材がよく絶品であった。尚写真左下は筆者が特注した西紅柿炒鶏蛋（たまごとトマトのあえもの）。高級料理店ではメニューにない家庭料理である。



- ② **食の安全性**：家禽類、特に生きた家鴨を持ち込む鶏肉の加工場が市場に併設されており、加工プロセスと管理がきわめて原始的である。鳥インフルエンザ（H5N1型）の人への感染と強毒性変性を防ぐためにも、買い物客が往来する市内の密封型市場では、屠殺は場外に分離すべきである。農産物の流通における安全性確保に関し、貴州省の場合守るべき基本法令は「食品安全法」、「農産品品質安全法」及び「貴州省農産品品質安全条例」〔4〕、「生猪屠宰管理条例」〔5〕の4つが基本となっている。残留農薬検査の方面では、野菜市場、農貿市場を中心に検査体制の整備を行っているが、インフルエンザ対策においては、後手に回っていると感じた。
- ③ **ツーリズムの視点から見た課題**：少数民族農家製農産物及び民族衣装を纏った運び人による流通は、無形文化遺産である。現在、国際観光客の関心が多様化しており、例えば、東京大田市場には、年間3,300人の外国人観光客が訪れる。また築地魚市場には、毎日平均数十人から数百人の外国人観光客が訪れている事実を考えると、貴州省における少数民族の運び人（老婦人が多い）も観光資源として保護／活用する手もあるだろう。現実には、市場での販売資格を持たないものの、空いた場所での個別の販売には当局も目をつぶっている。しかし明らかに肩身の狭い販売をしており、トラックで大量に野菜を搬入する業者が幅をきかせていた。

2. 貴州省の農産品物流戦略モデル

貴州市は目下、省内最大の野菜産地市場である五里冲農副産品卸売市場有限公司（旧名：貴陽野菜卸売センター市場。面積12万 M²）が手狭になった理由で、拡張を決定・「貴陽農産品物流園区」と改名し、新規に建設中である。2012年末の全面開業の際には5倍の規模となる。省内にはその他、遵義坪豊農副産品総合卸売市場（2.3万 M²）、黔西南州興義市豊源農貿市場（2.2万 M²）、関嶺野菜專業卸売市場（2.5万 M²）がある。

物流園区モデルとは、情報、商流、物流を一体化する考えで集約化を行うものであり、規模の経済による物流コスト低減を目指す。中国では、1990年6月に初めて上海外高橋が批准され、2004年より開業したモデルである。そして同年、青島、寧波、大連、張家港、廈門、深圳の6か所でも認可された。保税區同様、外国として見なされ、優遇税制や運輸倉庫業の保税措置も取られ、加工貿易モデルや、3PLモデルも導入された。①経済技術開發區 ②高新技術（＝ハイテク）産業開發區 ③保税區とともに5形態の經濟特區の一つとし、その後全国に拡大された。

農業物流園は、これらの物流園区モデルを参考に、中国国家發展・改革委員會の批准により山東省の寿光農産品寿光物流園（China Shouguang Agricultural Products Logistic Park/略称CSALP）が第一号として認可され、2009年11月より正式開業した。

貴州省の戦略としては、寿光モデルを参考に、龍洞堡食品輕工業園をダウンストリームとして農産品から加工食品までの食料バリューチェーンを構築することを目指していると思われる。

3. 貴州省が發展するための提言：

1) 少数民族の文化資源を活用した国際観光振興策：貴州省はきわめて魅力的な資源を有する。具体的には、環境、風俗、衣装、生活習慣、

伝統文化、踊りである。訪れた観光地は高齢化が進んでおり、若者は男子を中心に都会に出ており、老婦人や子供が村に住んでいる。無形も含めた文化遺産の継承の面から、戦略的保護がまず第一歩である。外国人観光客に対し、改善を必要とするのは以下の5点である。

① **トイレの近代化**：大部分が旧式のくみとり式トイレで、レストランにおいても劣悪である。民宿においてはシャワー設備と併設されることも多く最悪と言えよう。TOTO、INAXの衛生陶器の設置は、かつての、中国の大都市が積極的に導入したのを学び、外国人観光客に対する最低条件としての社会インフラととらえるべきであり、貴州省の行政幹部の意識改革が絶対的に必要である。特に日本女性は、トイレの質が悪いと二度と訪問しないと肝に銘じるべきであろう。

② **円借款時代の日本との関係の復活**：2007年に正式に終了した円借款以降、日本との経済交流・人的交流が希薄化しているように感じた。日本政府は1984年以降、貴州省に対して円借款による11案件のインフラ整備合計2,420億円〔6〕を中心に開発援助（ODA）を継続して行っており、日本の貢献度はきわめて高い。しかし、2004年の貴州市水環境整備事業（121億円）が最後の案件となった。戦略ODAの見地から、最貧困省である貴州省への日本の積極的な貢献は、今後の日中関係維持の上で必要である。

③ **少数民族の民芸品デザイン力の向上**：刺繍や土産物に素晴らしいデザインが見受けられる。しかし日本人にとって、持ち帰るにはあまりに大きい木工品や極端に高い銀細工などは手が出にくい、また、日本人は櫛（くし）を贈る習慣がないことを知らないようである。日本人観光客にとって、小さくて気が利き、デザイン性のある小物は、お土産としてのニーズがある。少数民族にお土産の為のデザイン教育を行うべきであろう。

④ **少数民族の民宿宿泊の魅力**：予想外に満足度が高かったのが、山村の生活である。筆者達は、日没までに調査が終わらず、偶然、少数民族の山村に宿泊した。その夜は白鳥座流星群の到来時期と重なった。これまで見たこともないような巨大な流星が、炎の尻尾をたなびかせ、その姿が肉眼ではっきり見えた。左上方から出現して天空を横切り、まるでスローモーションのように移動しては、右手の山影に消えていったのには驚いた。小惑星探査機「はやぶさ」の大気突入の様子を髣髴させるような光景を見ることができた。民家の夜空は、星が降り注ぐようで、コオロギや虫の音は、静寂の中でさわやかに鳴いていた。これらは、都市住民にとって貴重な、無形資産である。

⑤ **河川の水質向上**：経済発展が他地域に比べて大きく遅れているとはいえ、高速道路の整備が急速に進み、モータリゼーションの波が貴州省にも訪れつつある。台湾からの観光客も増加する一方、庶民の生活水準や消費文化の西欧化により、河川の汚染が始まっていると感じた。もとより亜熱帯湿潤モンスーン気候による降雨量の多い地域で、水資源の豊富な環境であったことが災いし、管理が行き届いていないように見えた。観光地の滝の水質は一見しただけではわからないが、滝壺から先の下流を観察すると、明らかに生活用水が混入し、不快な泡が生成していた。今は軽度だが、今後の深刻化が危惧される。

[1] 「史記」司馬遷著：『西南夷列傳 第56』に14か所、『司馬相如列伝 第57』に3か所記述有り。

[2] 人口750万人（2009年末）で貴州省最大の都市。

[3] 龍洞堡食品工業園：<http://www.nanming.gov.cn/ldbgyy/yqjbqk.aspx>

[4] 貴州省人大常委（2008年1月施行開始）：http://www.gzrd.gov.cn/pages/show_

dffg.aspx?id=565

[5] 国務院第525号（2008年8月施行開始）：

<http://www.gov.cn/flfg/2008-05/30/>

content_1000129.htm

[6] 「中国貴州省の持続可能な発展に向けた

諸政策」 pp.78、桃山学院大学